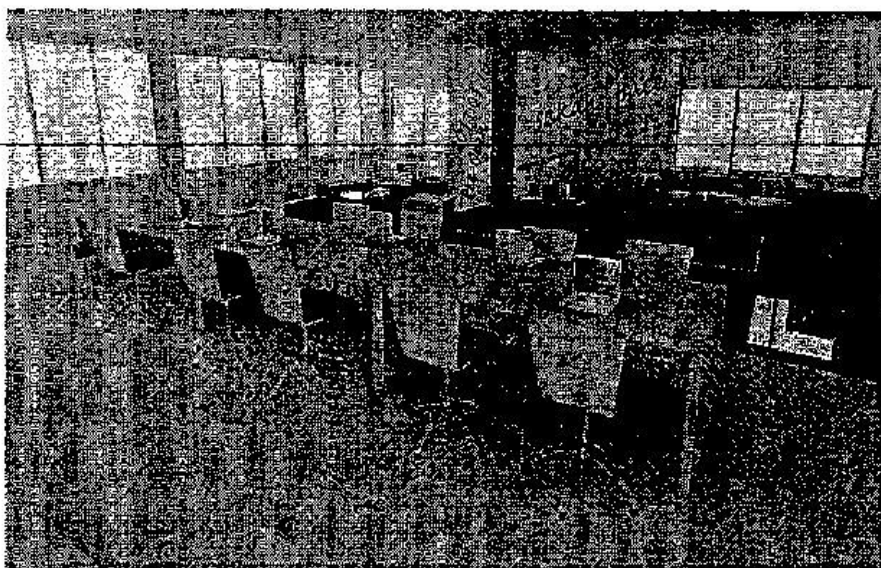


コワーキングスペース



関西活性化の起爆剤に

16日・本町にオープン

事務所を共有しながら、他人と切磋琢磨し仕事をする「コワーキングスペース」―完成予想図Ⅱが16日、大阪のビジネス街・本町にオープンする。関西のIT企業約500社の協力で、運営側は「働き方と関西を本町から変える」と意気込んでいる。【高橋望】

コワーキングスペースとは、米国を中心に数年前から広がり始めた仕事の場。起業しようとする人たちが、独立した事務所を持つよりも手ごろな値段でデスク付きのスペースを持ち仕事ができる。同

じような志を持つ人が集まるため、アイデア交換や懇親を図り、刺激し合える。日本でも東京を中心にでき始めている。スキルアップを図るサリアーマン、勉強しようという主婦らも利用している。

大阪にできるのは「オオサカンスペース」(同市中央区備後町3)。

地下鉄御堂筋線本町駅

徒歩1分。http://www.osakan-spac

e.com/。

スペースの発案者

は、IT企業「EC



事務所共有し切磋琢磨

studio」―山本敏行社長(37)、吹田市。同社は、関西を盛り上げるため、過去4年間、参加企業約500社、参加人数延べ5000人を超える交流会を開いてきた。関西を活性化させる起爆剤としてコワーキングに着目。山本社長は昨年、コワーキングの本場で、IT企業集積地シリコンバレーのある、米サンフランシスコを視察。本町を拠点とした「和製シリコンバレー」を作る計画の端緒にしよう

うと考えている。スペースの運営は、同社の子会社、「EC studio」スペース―大崎弘子社長(35)が当たる。大崎社長は「人が集まると何か生まれる。大阪の景気回復に貢献したい」と話す。利用時間は午前8時〜午後8時。電源やネット環境完備で月額9800円から。関西最大規模の106平方メートル、デスクは40席。会議室やネット動画中継サービス「USTRE

AM(ユーストリー△)の公認スタジオも利用できる。サイトで先行予約を受け付けている。業経営者への起業相談もできる。サイトで先行予約を受け付けている。